
「歴史・文化・芸術資源を活用した地域活性化のあり方」
千葉経済センター【公益財団法人ひまわりベンチャー育成基金】

はじめに

千葉県の歴史・文化・芸術分野の最近の動きをみると、千葉市加曽利貝塚が貝塚として初めて特別史跡に指定されたほか、市原市田淵の地層が「チバニアン」の命名で国際基準地に選抜されるなど、県内の地域資源が大きくクローズアップされている。もっとも、県内には数多くの歴史・文化・芸術資源があるものの、その価値が十分に認知されておらず、有効に活用できていない地域資源も少なくない。

本調査では、県内の自治体を対象にしたアンケート・ヒアリング調査で、歴史・文化・芸術資源の活用状況や課題を明らかにするとともに、2020 東京オリンピック・パラリンピック競技の県内開催も踏まえつつ、新たな資源を創造したり、既存の資源を活用して地域活性化につなげている地域の好事例を紹介しつつ、歴史・文化・芸術資源を活用したさらなる地域活性化策¹について整理・提言する。

なお、芸術の分野は幅広いが、本稿では芸術の分野を美術と音楽に絞り、言及している。

¹ 「歴史・文化・芸術資源を活用した地域活性化」の定義

本稿では、歴史・文化・芸術を活用し、地域の魅力・知名度の向上により観光客増加などの経済効果を得ることや、地域住民のアイデンティティの醸成を促し、定住人口が増加することとした。

1. 千葉県内の歴史・文化・芸術資源の現状及び活用状況等

(1) 千葉県内の歴史・文化・芸術資源の現状

① 博物館数・入館者数

我が国の博物館²数は、2008年に5,775館とピークを付けた後、リーマンショックの影響などから減少基調に転じ、直近の15年時点で5,690館（ピーク比▲85館）となっている（図表1）。

千葉県内の博物館数も同様に、2008年の122館から、15年には119館に減少している。また、人口10万人当たりの博物館数（15年）でみると、千葉県は1.9館と、1都3県（以下「東京圏」）の中では東京に次ぎ、神奈川と同水準になっている。全国的には、長野県や山梨県など東京近郊の内陸観光県に、人口対比で多く立地している。

博物館への入館者数については、日本全体として横這い圏内で推移している（図表2）。本県の入館者数は千葉市美術館（企画展人気）や加曽利貝塚³博物館などを中心に、ここ数年は増加傾向を辿っている。人口10万人当たりでみた入館者数は97.8千人と、東京（290.5千人）や神奈川（219.0千人）と比べてかなり低いですが、近年の増加テンポ（4.6%）は東京圏の中では最も高く、今後さらなる魅力的な企画や展示を通じて徐々に追いついていくことが期待される。

図表 1 博物館数

（単位：館）

区 分	2008年	2015年	対2008年		人口10万人 当たり (2015年)
			増減数	増減率 (%)	
千葉県	122	119	▲ 3	▲ 2.5	1.9
東京都	318	300	▲ 18	▲ 5.7	2.3
神奈川県	178	171	▲ 7	▲ 3.9	1.9
埼玉県	124	127	3	2.4	1.7
全 国	5,775	5,690	▲ 85	▲ 1.5	4.4

（出所：文部科学省「社会教育調査」（各年10月1日現在）、総務省「住民基本台帳」（各年1月1日現在）を基に作成）

図表 2 入館者数

（単位：千人）

区 分	2008年	2015年	対2008年		人口10万人 当たり (2015年)
			増減数	増減率 (%)	
千葉県	5,851	6,119	268	4.6	97.8
東京都	39,960	38,626	▲ 1,334	▲ 3.3	290.5
神奈川県	19,711	19,963	252	1.3	219.0
埼玉県	6,559	6,445	▲ 114	▲ 1.7	88.2
全 国	279,871	279,996	125	0.0	218.4

（出所：文部科学省「社会教育調査」（各年10月1日現在）、総務省「住民基本台帳」（各年1月1日現在）を基に作成）

² 博物館とは、総合博物館、歴史博物館、科学博物館、野外博物館、美術博物館、動植物園、動物園、植物園、水族館を指す。

³ 2017年10月、国の特別史跡に指定された。

② 指定文化財

次に指定文化財の数をみておこう。我が国には「国」指定文化財が 17,226 件存在するが、最も数が多い有形文化財の大多数は寺社や武家・豪農関連の建造物で、古くから歴史の表舞台となった京都や奈良のある近畿地方や、かつて武家政権が江戸や鎌倉に幕府をおいたことによって東京都や神奈川県に多く、県内の指定文化財は 129 件（全国シェア 0.7%）に止まっている（図表 3）。

また、人口 10 万人当たりの指定文化財数（国+県）をみると、千葉県は国指定文化財が少ないため、10.9 件と全国（30.6 件）及び東京都（27.7 件）の 3 分の 1 程度となっている。

一方、「都道府県」指定の文化財数は県内全体で 551 件と東京圏（合計 2,445 件）の中では比較的多く、地域活性化の資源として県指定文化財の活用を改めて検討する余地が十分にあるとみられる（図表 4）。

図表 3 国指定文化財数

(単位:件)

		千葉県	東京都	神奈川県	埼玉県	全国
有形文化財		75	2,787	348	81	13,166
無形文化財		0	48	1	2	111
文化的景観		0	1	0	0	61
伝統的建造物群保存地区		1	0	0	1	117
民俗文化財	有形民俗文化財	2	9	2	6	220
	無形民俗文化財	6	6	6	8	309
記念物	史跡	28	48	58	20	1,805
	名勝	4	11	5	1	410
	天然記念物	13	15	6	10	1,027
合計		129	2,925	426	129	17,226

(出所:文化庁ホームページ、2018年6月1日現在)

図表 4 県・都指定文化財数

(単位:件)

		千葉県	東京都	神奈川県	埼玉県	東京圏
有形文化財		328	335	251	327	1,241
無形文化財		9	7	0	2	18
文化的景観		0	0	0	0	0
伝統的建造物群保存地区		0	0	0	0	0
民俗文化財	有形民俗文化財	21	17	18	25	81
	無形民俗文化財	58	59	30	51	198
記念物	史跡	82	327	25	186	620
	名勝	3	11	3	7	24
	天然記念物	50	63	63	87	263
合計		551	819	390	685	2,445

(出所:文化庁ホームページ、2017年5月1日現在)

③ ちば遺産 100 選

ちば遺産 100 選は、「県民の誇りとしそれを継承していくべき伝統文化、文化遺産、自然遺産」として、2008 年に県民投票と県文化財保護審議会の意見をもとに選定されたものである。伝統文化 19 件、文化遺産 54 件、自然遺産 27 件から成り、「ふさの国の小さな旅」（千葉県発刊の旅行ガイドブック）にも掲載されている。

選ばれた資源数を地域別にみると、「銚子・九十九里・南房総地域」が 38 件で最も多く、「アクアライン・圏央道沿線地域（21 件）」、「成田空港周辺・印旛地域（20 件）」が続いている（図表 5）。代表的なものは、図表 6 の通りである。

図表 5 ちば遺産 100 選

(単位:件)

地域	市町村	合計	伝統文化	文化遺産	自然遺産
東京湾岸地域	千葉市・市川市・船橋市・習志野市・八千代市・浦安市・鎌ヶ谷市	12	2	6	4
		構成比 (%)	16.7	50.0	33.3
常磐・つくば エクスプレス 沿線地域	松戸市・野田市・柏市・流山市・我孫子市	11	3	6	2
		構成比 (%)	27.3	54.5	18.2
成田空港周辺・ 印旛地域	成田市・佐倉市・四街道市・八街市・印西市・白井市・富里市・酒々井町・栄町・神崎町・多古町・山武市・芝山町・横芝光町	20	3	12	5
		構成比 (%)	15.0	60.0	25.0
銚子・九十九里・ 南房総地域	香取市・東庄町・銚子市・旭市・匝瑳市・一宮町・睦沢町・長生村・白子町・勝浦市・いすみ市・大多喜町・御宿町・館山市・鴨川市・南房総市・鋸南町・九十九里町	38	10	19	9
		構成比 (%)	26.3	50.0	23.7
アクアライン・ 圏央道沿線地域	市原市・茂原市・木更津市・東金市・大網白里市・長柄町・長南町・君津市・富津市・袖ヶ浦市	21	3	11	7
		構成比 (%)	14.3	52.4	33.3

(出所:千葉県ホームページを基に作成。複数の地域にまたがる資源があるため、合計は100とならない)

図表 6 地域別代表例

地域	伝統文化	文化遺産	自然遺産
東京湾岸地域	下総三山の七年祭り(千葉市・船橋市・習志野市・八千代市)	加曾利貝塚(千葉市;国指定)	三番瀬と谷津干潟(市川市・船橋市・習志野市・浦安市)
常磐・つくばエクスプレス沿線地域	野田のぼっぴか獅子舞(野田市)	旧徳川家松戸戸定邸と庭園(松戸市;国指定)	柏市内、手賀沼上流域の森林と水辺(柏市)
成田空港周辺・印旛地域	広済寺の鬼来迎(横芝光町;国指定)	成田山新勝寺の伽藍(成田市;国指定)	木下貝層(印西市;国指定)
銚子・九十九里・南房総地域	佐原の山車行事(香取市;国指定)	香取神宮の本殿と楼門(香取市;国指定)	犬吠埼白亜紀浅海堆積物とアンモナイト化石(銚子市;国指定)
アクアライン・圏央道沿線地域	上総堀り技術と同用具(木更津市・袖ヶ浦市;国指定)	長柄横穴群(長柄町;国指定)	高宕山のサル生息地(君津市・富津市;国指定)

(出所:千葉県ホームページを基に作成)

④ 千葉県の観光入込における「歴史・文化」の位置づけ

千葉県の観光入込は東日本大震災が発生した 2011 年が直近ボトム⁴である。その後回復に転じて 14 年に震災前水準を上回った（ピーク更新）後も増加を続け、16 年の入込客数はボトム比+33.2% の水準に達している。

11 年対比での回復度合いを分野（分類）別にみると、一番伸びが高いのは「都市型観光」（3.1 倍、TDR 等テーマパーク、アウトレット等買物、グルメなど）で、以下「行事・イベント」（+35.8%、幕張メッセ、アクアライン・マラソン大会等）、「自然」（+31.7%）、「スポーツ・レクリエーション」（+24.1%）の順となっている。「歴史・文化」は+16.2%と 5 番目の伸びで、「温泉・健康」（+4.0%）と並んで、入込数は震災前のレベルに戻っていない。

この結果、入込客総数に歴史・文化が占める構成比（シェア）は、何れの地域でも低下傾向となっている。これには、日本人観光客の「名所・旧跡離れ」「イベント・アクティビティ・買い物・グルメ・インスタ映え志向」といった観光目的の変化や、外国人観光客の成田・TDR への集中⁵と成田以外の歴史・文化施設への不訪問、などが影響していると考えられる。

回復率を 5 地域別にみると、入込客数全体では、「アクアライン・圏央道沿線地域」（アクアライン通行料金引下げ効果浸透、木更津等アウトレット施設拡充）が+64.1%と最も高く、次いで「成田空港周辺・印旛地域」（酒々井・成田等インバウンド向け商業モール拡充、新勝寺参道の街並み整備等）の+54.4%となっている。このうち、歴史・文化分野をみると、5 地域とも回復率は 10% 台で地域別の差異は小さい。客数絶対値としては「成田空港周辺・印旛地域」が新勝寺と空港の存在から 13,790 千人地点と圧倒的に多い。

⁴ 観光施設のうち震災の風評被害等が最も大きかったのが、試合やイベントの中止が相次いだ「スポーツ・レクリエーション」分野であり、「歴史・文化」分野は相対的に震災時の落ち込みが小さかったことにより、直近ボトムが前述の博物館入館者数（2008 年）と異なる。

⁵ 世界的に支持されている個人旅行者向けのガイドブック「ロンリープラネット」によると、日本版において取り上げられている千葉県観光地は、主に「成田」「TDR」に留まっており、訪日客の来訪はこの 2 か所に集中している。

図表 7 観光入込客数

(単位:千人地点※)

地域	分類	2010年		2011年		2012年		2014年		2016年		対2011年比増減率(%)
		2010年	分類別構成比(%)	2011年	分類別構成比(%)	2012年	分類別構成比(%)	2014年	分類別構成比(%)	2016年	分類別構成比(%)	
千葉県	自然	3,249	2.1	2,227	1.7	2,426	1.6	2,921	1.7	2,933	1.7	31.7
	歴史・文化	27,434	17.5	22,842	17.1	25,132	16.2	25,243	15.1	26,543	14.9	16.2
	温泉・健康	4,722	3.0	4,383	3.3	4,167	2.7	4,600	2.7	4,558	2.6	4.0
	スポーツ・レクリエーション	63,317	40.3	54,370	40.8	59,311	38.2	66,009	39.4	67,500	38.0	24.1
	都市型観光	7,994	5.1	7,510	5.6	16,555	10.7	20,582	12.3	23,422	13.2	211.9
	その他	24,160	15.4	21,523	16.1	23,058	14.9	21,824	13.0	24,852	14.0	15.5
	行祭事・イベント	26,174	16.7	20,498	15.4	24,453	15.8	26,488	15.8	27,845	15.7	35.8
	合計	157,050	100.0	133,353	100.0	155,100	100.0	167,667	100.0	177,653	100.0	33.2
東京湾岸地域	自然	435	0.6	184	0.3	316	0.5	351	0.5	308	0.4	66.9
	歴史・文化	4,735	6.4	3,647	5.7	3,784	5.4	3,851	5.2	4,357	5.6	19.5
	温泉・健康	1,502	2.0	1,471	2.3	1,419	2.0	1,457	2.0	1,463	1.9	▲ 0.5
	スポーツ・レクリエーション	43,085	58.7	37,903	59.7	42,210	60.6	46,894	63.3	48,135	61.7	27.0
	都市型観光	3,675	5.0	3,451	5.4	3,366	4.8	2,856	3.9	3,681	4.7	6.7
	その他	6,110	8.3	5,481	8.6	5,765	8.3	5,441	7.3	5,419	7.0	▲ 1.1
	行祭事・イベント	13,917	18.9	11,300	17.8	12,784	18.4	13,190	17.8	14,602	18.7	29.2
	合計	73,459	100.0	63,437	100.0	69,645	100.0	74,040	100.0	77,965	100.0	22.9
常磐・つくばエクスプレス沿線地域	自然	105	1.2	80	1.3	77	1.0	64	0.8	76	0.9	▲ 5.6
	歴史・文化	454	5.3	325	5.2	937	11.9	401	4.7	388	4.6	19.5
	温泉・健康	843	9.8	827	13.2	678	8.6	880	10.3	697	8.2	▲ 15.7
	スポーツ・レクリエーション	2,118	24.7	1,939	30.9	2,089	26.5	2,361	27.7	2,798	33.0	44.3
	都市型観光	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0
	その他	1,287	15.0	978	15.6	1,158	14.7	1,247	14.6	1,153	13.6	17.9
	行祭事・イベント	3,760	43.9	2,124	33.9	2,951	37.4	3,579	41.9	3,380	39.8	59.2
	合計	8,569	100.0	6,273	100.0	7,891	100.0	8,532	100.0	8,492	100.0	35.4
成田空港周辺・印旛地域	自然	261	1.2	185	1.0	201	1.0	287	1.1	260	0.9	40.2
	歴史・文化	13,328	62.6	11,822	62.9	12,771	62.1	13,279	50.9	13,790	47.5	16.6
	温泉・健康	681	3.2	631	3.4	611	3.0	668	2.6	632	2.2	0.2
	スポーツ・レクリエーション	3,035	14.3	2,496	13.3	2,834	13.8	2,790	10.7	2,971	10.2	19.1
	都市型観光	190	0.9	132	0.7	111	0.5	4,604	17.6	6,022	20.8	4447.0
	その他	1,630	7.7	1,384	7.4	1,477	7.2	1,604	6.1	2,092	7.2	51.2
	行祭事・イベント	2,160	10.1	2,145	11.4	2,558	12.4	2,856	10.9	3,245	11.2	51.3
	合計	21,285	100.0	18,795	100.0	20,562	100.0	26,087	100.0	29,012	100.0	54.4
銚子・九十九里・南房総地域	自然	1,668	5.4	1,343	5.4	1,345	5.2	1,613	5.9	1,725	5.8	28.5
	歴史・文化	7,711	24.8	6,020	24.1	6,624	25.4	6,634	24.2	6,848	23.1	13.8
	温泉・健康	1,180	3.8	1,009	4.0	1,137	4.4	1,208	4.4	1,209	4.1	19.7
	スポーツ・レクリエーション	7,333	23.6	5,477	21.9	5,371	20.6	6,383	23.3	5,793	19.5	5.8
	都市型観光	3,275	10.5	2,693	10.8	2,699	10.4	2,489	9.1	2,833	9.6	5.2
	その他	6,057	19.5	5,077	20.3	5,084	19.5	5,131	18.7	7,563	25.5	49.0
	行祭事・イベント	3,854	12.4	3,395	13.6	3,794	14.6	3,924	14.3	3,674	12.4	8.2
	合計	31,078	100.0	25,014	100.0	26,053	100.0	27,382	100.0	29,645	100.0	18.5
アクアライン・圏央道沿線地域	自然	798	3.5	435	2.2	487	1.6	606	1.9	565	1.7	30.1
	歴史・文化	1,234	5.4	1,029	5.2	1,017	3.3	1,078	3.4	1,159	3.6	12.7
	温泉・健康	516	2.3	445	2.2	322	1.0	388	1.2	558	1.7	25.3
	スポーツ・レクリエーション	7,874	34.5	6,555	33.0	6,806	22.0	7,581	24.0	7,802	24.0	19.0
	都市型観光	869	3.8	1,234	6.2	10,379	33.5	10,632	33.6	10,887	33.5	782.5
	その他	9,076	39.8	8,604	43.4	9,573	30.9	8,401	26.6	8,625	26.5	0.2
	行祭事・イベント	2,447	10.7	1,534	7.7	2,365	7.6	2,940	9.3	2,944	9.0	91.9
	合計	22,814	100.0	19,835	100.0	30,950	100.0	31,626	100.0	32,540	100.0	64.1

(出所:千葉県商工労働部観光企画課「千葉県観光入込調査報告書」)

※人地点:観光客を集客する力のある施設又はツーリズム等の観光活動の拠点となる地点及び行祭事・イベントごとの観光入込客数の総数の単位

(2) 千葉県内の歴史・文化・芸術資源の活用状況等（自治体へのアンケート結果）

千葉県における歴史・文化・芸術資源の活用状況及び今後の課題等を明らかにするために、県内自治体 54 市町村を対象にアンケート調査を実施し、41 自治体から回答を得た（有効回答率 75.9%、実施期間：2018 年 4 月 20 日～5 月 11 日）。

調査に当たって市町村に提示した歴史・文化・芸術資源の定義は以下の通りである。資源としての回答は各自治体の判断によるため、前記の指定文化財数と必ずしも合致しない。

図表 8 歴史・文化・芸術資源の定義

歴史資源	文化資源	芸術資源
史跡	伝統行事(祭事・催事)	音楽
歴史的文化財(博物館)	芸能	アート
歴史的建造物(街並み)	民話・伝説	舞台
歴史的イベント	郷土料理	美術館
郷土出身者	花火大会	コンサートホール
歴史イベント	文化イベント	音楽イベント

① 歴史・文化・芸術資源の活用度

今回のアンケートで 42 自治体から回答を得た歴史・文化・芸術資源は合計 931 件（平均 22.1 件）に上った。地域別（自治体平均）で見ると、「常磐・つくばエクスプレス沿線地域」が 40.5 件と最も多く、以下、「東京湾岸地域」（36.4 件）、「アクアライン・圏央道沿線地域」（22.7 件）と続く（図表 9）。分野別にみると、どの地域も歴史資源が多く、次いで文化資源、芸術資源の順になっている。

歴史・文化・芸術資源の活用度については、「十分に活用している」が 14.3%となっており、「やや活用している（40.5%）」を加えると過半数の市町村が「活用している（十分に+やや）」と回答（図表 10）。

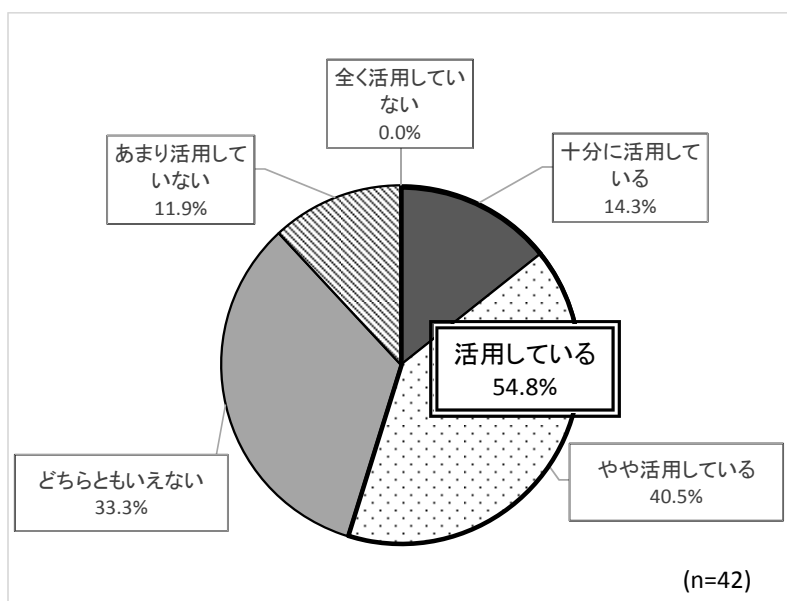
地域別にみると、「活用している（同）」は「常磐・つくばエクスプレス沿線（100.0%）」や「東京湾岸地域（71.5%）」などの都市部かつ資源が多い自治体で高水準となっている点が目立つ（図表 11）。その他のエリアでは、「活用している（同）」が 40～50%台に留まっているほか、「成田空港周辺・印旛地域」では 3 分の 1 の自治体が「あまり活用していない」と回答している。

図表 9 各自治体の歴史・文化・芸術資源の数

(単位:件)

地域 (回答自治体数)	自治体	計	歴史資源	文化資源	芸術資源
千葉県全体		931	560	261	110
東京湾岸地域 (7)	千葉市	30	7	10	13
	市川市	55	25	24	6
	船橋市	57	41	13	3
	習志野市	13	8	3	2
	八千代市	50	28	18	4
	浦安市	38	27	8	3
	鎌ヶ谷市	12	6	2	4
	小計	255	142	78	35
平均	36.4	20.3	11.1	5.0	
常磐・つくばエクス プレス沿線地域 (2)	松戸市	64	55	3	6
	野田市	17	8	9	0
	小計	81	63	12	6
	平均	40.5	31.5	6.0	3.0
成田空港周辺 ・印旛地域 (12)	成田市	28	6	14	8
	佐倉市	24	8	8	8
	四街道市	12	4	5	3
	印西市	53	45	7	1
	白井市	22	8	8	6
	八街市	3	1	1	1
	富里市	6	4	2	0
	酒々井町	8	5	3	0
	栄町	12	3	5	4
	山武市	16	13	2	1
	芝山町	15	8	5	2
	横芝光町	15	8	6	1
	小計	214	113	66	35
	平均	17.8	9.4	5.5	2.9
銚子・九十九里 ・南房総地域 (12)	香取市	8	5	2	1
	銚子市	24	8	8	8
	旭市	59	49	8	2
	匝瑳市	17	4	9	4
	一宮町	5	2	3	0
	睦沢町	10	4	4	2
	長生村	2	1	1	0
	勝浦市	2	1	1	0
	大多喜町	10	4	6	0
	館山市	20	12	7	1
	鴨川市	11	8	2	1
	南房総市	9	3	5	1
	小計	177	101	56	20
	平均	14.8	8.4	4.7	1.7
アクアライン ・圏央道沿線地域 (9)	市原市	41	16	19	6
	茂原市	15	7	5	3
	木更津市	11	5	6	0
	東金市	70	67	2	1
	大網白里市	3	1	1	1
	長柄町	1	1	0	0
	長南町	7	4	3	0
	富津市	16	6	8	2
	袖ヶ浦市	40	34	5	1
	小計	204	141	49	14
	平均	22.7	15.7	5.4	1.6

図表 10 資源の活用度



図表 11 資源の活用度 (地域別)

(単位: %)

	回答数 (n)	活用している				活用していない		
		活用している	十分に活用している	やや活用している	どちらともいえない	活用していない	あまり活用していない	全く活用していない
全体	42	54.8	14.3	40.5	33.3	11.9	11.9	0.0
東京湾岸地域	7	71.5	42.9	28.6	28.6	0.0	0.0	0.0
アクアライン・圏央道沿線地域	9	55.6	0.0	55.6	44.4	0.0	0.0	0.0
成田空港周辺・印旛地域	12	41.6	8.3	33.3	25.0	33.3	33.3	0.0
常磐・つくばエクスプレス沿線地域	2	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
銚子・九十九里・南房総地域	12	50.0	0.0	50.0	41.7	8.3	8.3	0.0

② 資源を活用した取組内容

活用具体例の回答があった自治体の取組内容を見ると、歴史分野が全体の7割を占めて最も多く、文化分野が約2割、芸術分野が約1割となっている(図表12)。「歴史」資源では寺社・城跡・街並み・著名人ゆかりの家など建造物が多いが、房州石(富津市)、貝塚(四街道市)、牧(鎌ヶ谷市)、横穴群(長柄町)など千葉県独自の地質や風土を活かす取り組みも行われている。また、歴史資源を単なる名所・旧跡的な観光資源として位置づけるにとどまらず、「文化」行事(祭りへの活用: 習志野市、鎌ヶ谷市、館山市等)や「芸術」行事(コンサート開催: 松戸市、匝瑳市等、ロケ誘致: 匝瑳市)の場としても、市民向けを含めて活用する例が増えているのも近年の特徴である。

「文化」資源については、祭り(成田市、八千代市、東金市等)が多く挙げられた。

「芸術」資源については、明示的に分類されるものは、船橋市(音楽フェスティバル)と市原市(アート×ミックス)の2件の回答に留まった。

地域別にみると、回答のあった取組事例23件のうち21件は市部で実施されており、地域資源活用の都市部先行の傾向がうかがわれた。

図表 12 資源を活用した取組内容

分類	地域	自治体	活用している資源	取組内容
歴史	1	浦安市	歴史的文化財、建造物、街並み等	浦安ガイドマップの作成 回遊できる観光コースの設定／ぶらり浦安ガイド(ボランティアガイド)を活用したまち歩き
	2	松戸市	戸定歴史館	PROJECT1867(バリ万博の開催150周年を記念し他館、外部学術団体と連携して、展覧会、講演会、シンポジウム、コンサート、食のイベントなど多彩な行事を行う)
	2	野田市	市史講演会	毎年テーマを決めて、野田の歴史を知るための講演会を開講している。
	3	四街道市	八木原貝塚	小学6年生を対象として、八木原貝塚が所在する「千代田近隣公園」にてフィールドワークを行い、貝塚がある場所の見学を実施している。
	3	印西市	市内指定文化財	市民活動団体が実施する史跡めぐり事業の後援を行っている。今年度は市と団体が協働し大規模な史跡・名所めぐりを実施する。
	3	酒々井町	本佐倉城跡	酒々井ふるさとガイドの会による場内案内／来城者の為の駐車場等の整備／常設展示の設置／パンフレットの作成
	3	山武市	伊藤左千夫生家	「博学連携事業」(小学校・学童) 昔の道具(熨・行灯)、遊び(メンコ、ビー玉)を体験。
	4	香取市	・香取市佐原伝統的建造物群保存地区 ・伊能忠敬記念館	日本遺産「北総四都市江戸紀行」に認定され、江戸を支えた商家の町・佐原としてPRを進めている。
	4	館山市	南総里見まつり	戦国大名「里見氏」と小説「南総里見八犬伝」の世界を再現したまつり。総勢24基のお船・山車・屋台・神輿が参加し、総勢約200名による武者行列を見ることができる。また、会場では地元のグルメなどを楽しめる「ご当地グルメ物産祭り」や「里見芸能祭」も開催される。
	4	鴨川市	武志伊八郎信由の彫刻作品他	文化財に関するパンフレットの作成やアプリの開発。平成29年度まで、国庫補助金を利用。
	4	南房総市	史跡里見氏城跡岡本城跡	「保存活用計画」を策定することで、今後史跡の保護と整備を目指していく。併せて国史跡に指定された稲村城跡とも連携しながら整備を目指していく
	5	大網白里市	歴史文化資源全般	「館を持たない自治体が提案する本格的デジタル博物館」をコンセプトに、市に関する文化資源をインターネット上にデジタルミュージアムとして公開している。
	5	長柄町	史跡長柄横穴群	史跡見学を通して町のPR/デジタル化によるパンフレットの2か国語、3D化
	5	富津市	鋸山(房州石)	石切り場の調査/シンポジウム/石を使った地域の活性化
	文化	1	八千代市	市民文化祭
3		成田市	・成田山新勝寺 ・成田山門前の町並み ・台方麻賀多神社神楽 など	成田国際空港を擁する成田市において、本市にある数々の祭りや伝統芸能を次の世代に受け継いでいく「伝承保存活動」を継続していくとともに、それらを観光資源として最大限に活用し、国内外に発信するため、成田伝統芸能まつりを開催している。
4		銚子市	銚子資産	平成29年度に策定した「銚子市歴史文化基本構想」で位置づけた銚子の歴史文化を伝える「銚子資産」を活かして、町あるきルートの構築、文化財の活用、情報発信を行っていく。※文化庁の補助金を活用
5		東金市	東金市文化祭	作品展や体験コーナーを行う「文化展」と舞台上で演奏やダンス等を披露する「文化芸能大会」をまとめたイベント
芸術	1	船橋市	芸術資源 音楽	ふなばし音楽フェスティバル事業の実施 音楽のまち・ふなばし 千人の音楽祭/ふなばしミュージックストリート/地域ふれあいコンサート
	5	市原市	・月出工舎(旧月出小学校) ・森ラジオステーション ・アートハウスあそびらの谷 ・地熱の扉(アート作品)	いちばらアート×ミックスの開催 アート作品の展示や体験型ワークショップ飲食店の経営などを地元企業、団体、地域住民との協働により実施している。
歴史・文化	1	鎌ヶ谷市	国史跡下総小金中野牧跡	国史跡を周知するため、毎年4月・5月に「春の牧ウマまつり」を開催。国史跡の捕込等を会場に実施する「とっこめ桜まつり」や鎌ヶ谷にゆかりのある金原亭馬生師匠一門による「とっこめ寄席」など、「とっこめ」をキーワードにしたイベントとなっている。
歴史・芸術	1	習志野市	習志野俘虜収容所	「習志野ドイツフェア」の開催 第一次世界大戦当時、所内でオーケストラやスポーツ活動など文化活動を行っていたというドイツ兵の様子や近隣住民との交流の様子など、本市とドイツの歴史的な関わりを紹介しつつ、ドイツの代表的な行事であるオクトーバーフェストを模した地域交流イベントを実施している。
	4	匝瑳市	飯高寺(飯高檀林跡)	ロケ地としての対応/飯高寺(飯高檀林跡)ガイド(観光案内)/飯高檀林コンサート/イベント時の出店

※アンケート調査結果を基に作成したもの。

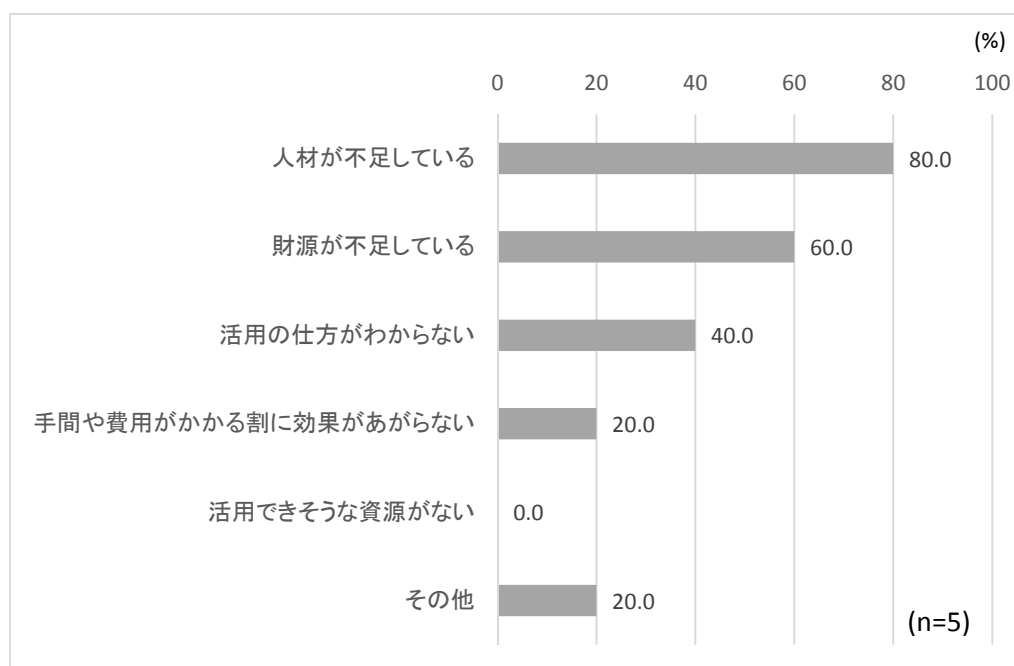
(地域 1: 東京湾岸地域、2: 常磐・つくばエクスプレス沿線地域、3: 成田空港周辺・印旛地域、4: 銚子・九十九里・南房総地域、5: アクアライン・圏央道沿線地域)

③ 活用していない理由

歴史・文化・芸術資源を活用していない自治体の理由をみると、「人材が不足している」が最も多く、次いで「財源が不足している」、「活用の仕方がわからない」、「手間や費用がかかる割に効果があがらない」となっている（図表 13）。

一方で、「活用できそうな資源がない」と回答した自治体はなく、今後の取り組み次第で大きな成果を上げられる可能性は十分にあるといえる。

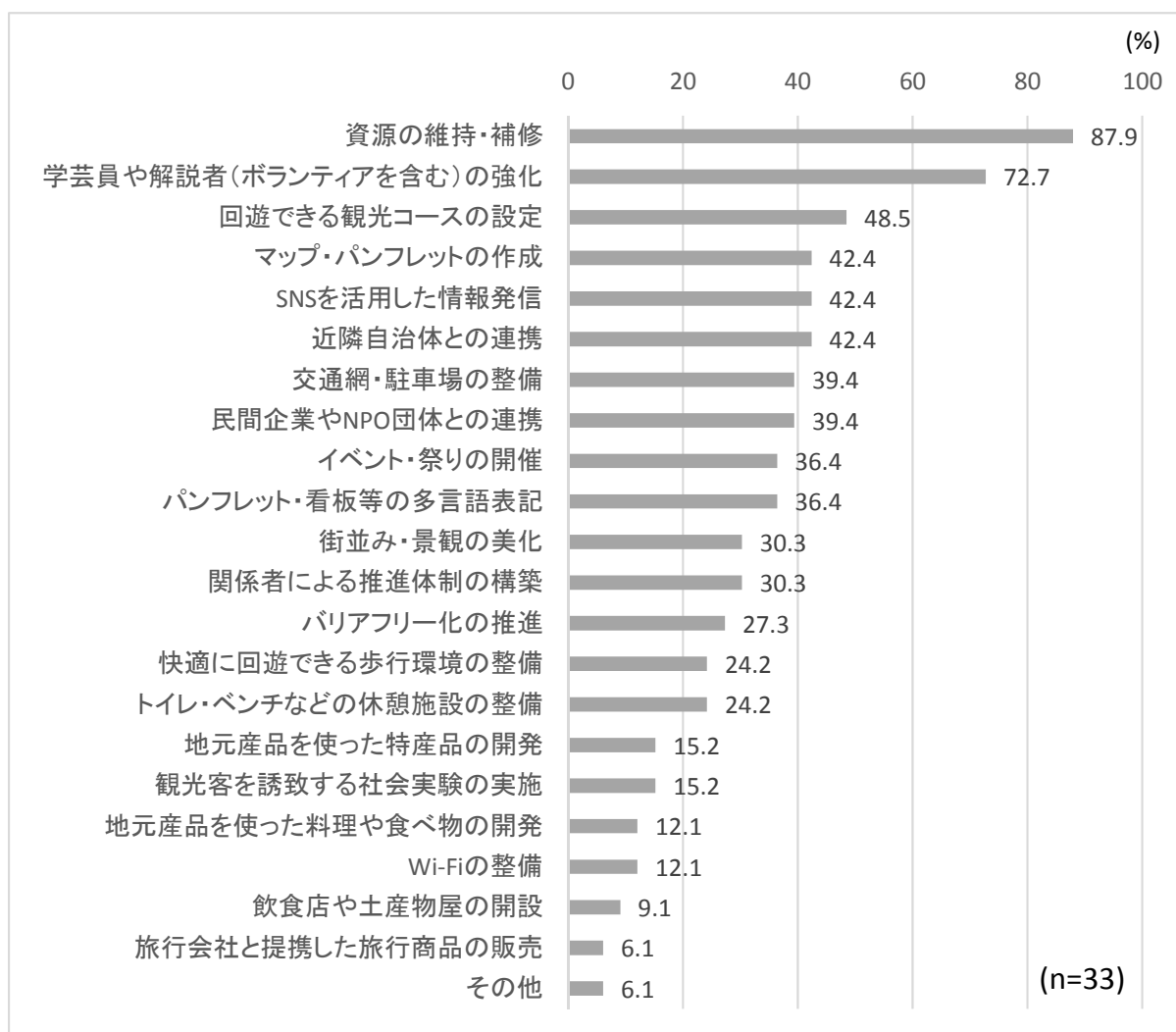
図表 13 活用していない理由



④ 今後行いたい取り組み

今後行いたい取り組みをみると、「資源の維持・補修」(87.9%)が突出して多い(図表14)。情報発信については、従来型の「学芸員や解説者(ボランティアを含む)の強化」(72.7%)のほか、「SNSの活用」(42.4%)も目立った。他機関との連携という面で「近隣自治体との連携」(42.4%)や「民間企業・NPOとの連携」(39.4%)が比較的多いことも評価できる。歴史資源等も活用した「イベント・祭りの開催」(36.4%)についても回答が3分の1を超えた。一方で、2020年東京オリンピック・パラリンピック(以下「オリ・パラ」)のレガシーを見据えた「バリアフリー化の促進」(27.3%)や訪日観光客等の誘客強化を目指す「Wi-Fiの整備」(12.1%)の回答は少なかった。

図表 14 今後行いたい取り組み

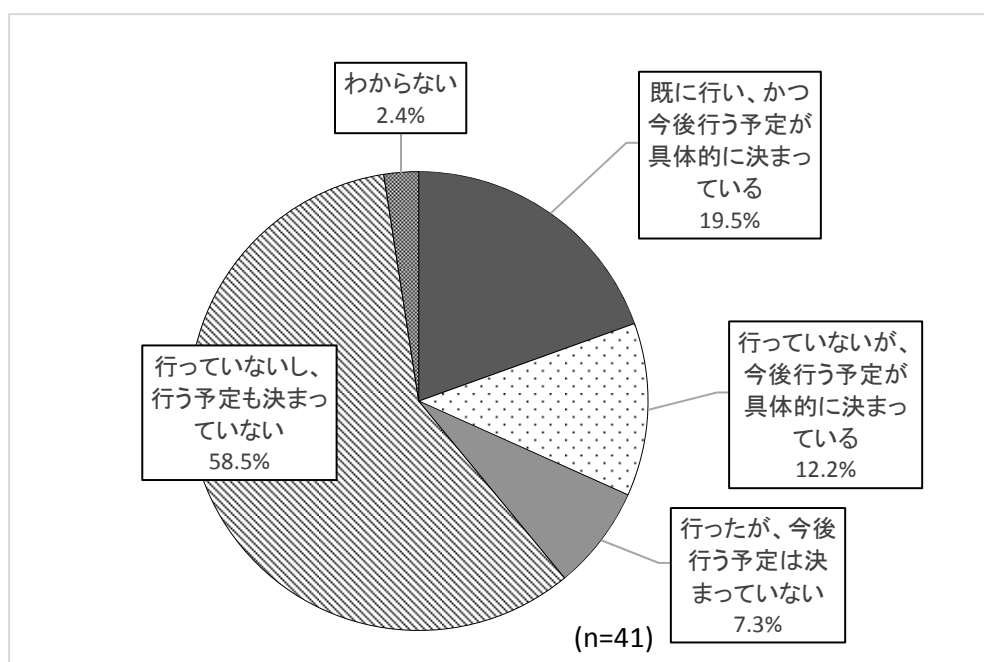


⑤ 東京オリ・パラに向けた文化イベントの実施状況

千葉県内におけるオリ・パラに向けた文化イベントの実施（予定）状況を見ると、「行っていないし、行う予定も決まっていない」が58.5%で最も多く、「行ったが、今後行う予定は決まっていない（7.3%）」を合わせると県内約7割の自治体が文化イベントの今後の予定がない状況となっており、国・オリパラ競技大会推進本部の方針との温度差が極めて大きい（図表15）。

地域別にみると、「東京湾岸地域」では、「今後行う予定が具体的に決まっている」自治体が57.2%と高い割合となっている（図表16）。一方、「行う予定が決まっていない」をみると、県内競技開催地から離れた「常磐線・つくばエクスプレス沿線地域（100%）」や「成田空港周辺・印旛地域（75.0%）」で高くなっている。これは「東京オリンピック・パラリンピックの開催効果を本県の一層の発展につなげ、その効果を次世代にしっかりと引き継ぐための取り組みを官民が一体となった『オール千葉』体制で進める方針」が、今のところ県内全域に浸透しきれていないことをうかがわせる。

図表 15 千葉県内における東京オリ・パラに向けた文化イベントの実施状況



図表 16 文化イベントの実施状況（地域別）

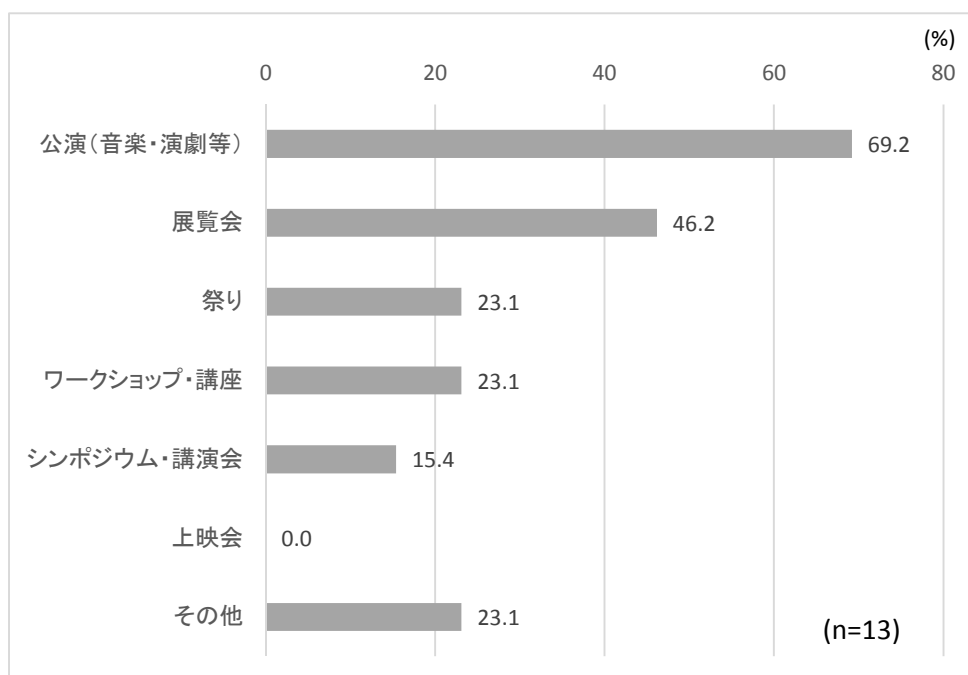
（単位：％）

	回答数（n）	「今後行う予定が具体的に決まっている」計	既に「行ったが、今後行う予定が具体的に決まっている」計	「行っていないが、今後行う予定が具体的に決まっている」計	「行っていない」計	行ったが、今後行う予定は決まっていない	行っていないし、行う予定も決まっていない	わからない
全体	41	31.7	19.5	12.2	65.8	7.3	58.5	2.4
東京湾岸地域	7	57.2	28.6	28.6	42.9	14.3	28.6	0.0
アクアライン・圏央道沿線地域	9	33.3	22.2	11.1	66.7	0.0	66.7	0.0
成田空港周辺・印旛地域	12	25.0	16.7	8.3	75.0	8.3	66.7	0.0
常磐・つくばエクスプレス沿線地域	2	0.0	0.0	0.0	100.0	50.0	50.0	0.0
銚子・九十九里・南房総地域	11	27.3	18.2	9.1	63.6	0.0	63.6	9.1

⑥ 実施予定の文化イベントの内容

実施予定のイベントの内容をみると、「公演（音楽・演劇等）」の 69.2%に「展覧会（46.2%）」が続くなど、芸術系のイベントの多さが目立つ（図表 17）。

図表 17 行う予定の文化イベントの内容



2. 2020 年東京オリ・パラに向けた文化プログラムの推進の現状と課題

(1) 国・東京圏における文化プログラムの主な動き

2015 年 5 月、政府は「文化芸術の振興に関する基本的な方針（第 4 次基本方針）」を策定した。その中でオリ・パラを「文化の祭典としても成功させることにより、我が国の文化や魅力を世界に示すとともに、文化芸術を通じて世界に大きく貢献するまたとない機会」と定義して、文化プログラムの全国展開を促した（図表 18）。この定義や考え方は、地方で開催されるプログラムも対象となる。同年 7 月に策定した「文化プログラムの実施に向けた文化庁の基本方針」では、文化力プロジェクト（仮称）の目標として、5 年間（2016～20 年）のイベント数 20 万件、参加アーティスト数 5 万人、参加人数 5,000 万人を掲げた。

16 年 10 月には、「2020 年を見据えた文化による国づくりを目指して（京都宣言）」を発表。2020 年に向け、文化関係者や行政等が一致団結して文化による国づくりに取り組む決意を表明するとともに、東京 2020 公認プログラム・応援プログラム⁶、17 年 7 月には beyond2020 プログラム⁷の認証を開始した。

オリ・パラ競技の開催が集中する東京圏でも、文化プログラム等の策定と実行に向けた様々な取り組みが進められている。

東京都は、2015 年 3 月に「東京文化ビジョン」を策定し、「オリ・パラを機に東京の活力を象徴する文化プログラムを展開し、有形・無形のレガシーに繋げていく」戦略が示された。

千葉県では 14 年 11 月に「2020 年東京オリンピック・パラリンピック CHIBA 推進会議」を設置し、15 年 3 月に策定した「2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉県戦略」の中で文化プログラム関連イベントの実施を掲げた。

埼玉県では、15 年 11 月に「2020 オリンピック・パラリンピック／ラグビーワールドカップ 2019 埼玉県推進委員会」を設置した後、16 年 4 月には「埼玉県文化芸術振興計画」を策定し、2020 年東京大会に向けた文化プログラムの実施とレガシーの創出に取り組んでいる。

神奈川県では、2016 年 10 月に「神奈川県オリパラ文化プログラム推進協議会」を設置し、2018 年 1 月に「神奈川文化プログラム認証制度」を開始するなど、各都県とも東京オリ・パラを契機とした歴史・文化・芸術分野のイベント開催や情報発信に取り組んでいる。

⁶ 東京 2020 大会に向けた機運の醸成及び大会後のレガシー創出に向けた文化分野のイベント・事業を東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会が認証する制度。東京 2020 公認プログラム（公認マーク（オリンピック、パラリンピックのエンブレムが入ったもの）の使用が可能）と、東京 2020 応援プログラム（応援マーク（オリンピック、パラリンピックのエンブレムが入らない）の使用が許可）の 2 種類がある。

⁷ 日本文化の魅力を発信するとともに、共生社会、国際化に繋がるレガシーを創出することを目的として、文化に関わる幅広い活動を内閣官房が認証する制度。

図表 18 東京オリ・パラに向けた文化プログラムに関連する主な動き

	国	東京圏
2014年6月		東京都が「第1回文化プログラム検討部会」を開催
2014年11月		千葉県が「2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議」を設置
2015年3月		2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議が「2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉県戦略」を策定
		東京都が「東京文化ビジョン」を策定・公表
2015年4月	「オリンピック・パラリンピックレガシー創出に向けた文部科学省の考えと取組」を公表	
2015年5月	「文化芸術の振興に関する基本的な方針－文化芸術資源で未来をつくる－（第4次基本方針）」を策定	
2015年7月	文化プログラムの実施に向けた文化庁の基本構想を発表	
2015年11月		埼玉県が「2020オリンピック・パラリンピック／ラグビーワールドカップ2019埼玉県推進委員会」を設立（文化・教育部会を設置）
2015年12月		東京都が「2020年に向けた東京都の取組－大会後のレガシーを見据えて－」を発表
2016年4月		埼玉県が「埼玉県文化芸術振興計画」を策定
2016年9月		東京都が「東京文化プログラム」を展開
2016年10月	スポーツ・文化・ワールド・フォーラム（京都）にて「2020年を見据えた文化による国づくりを目指して」（通称：京都宣言）を宣言	神奈川県が「神奈川県オリパラ文化プログラム推進協議会」を設置
	スポーツ・文化・ワールド・フォーラム（東京）	
	東京2020公認プログラム・応援プログラム開始	
2017年1月	beyond2020プログラムの開始	
2017年4月		2020オリンピック・パラリンピック／ラグビーワールドカップ2019埼玉県推進委員会の文化・教育部会が「文化アクションプラン」を策定
2017年5月	文化プログラムポータルサイト「Culture NIPPON」を運用開始	
2017年10月		千葉県が「ちば文化資産」の候補を募集
2018年1月		神奈川県が「神奈川文化プログラム認証制度」を開始
2018年4月		埼玉県が「オール埼玉で彩る文化プログラム公募事業」を実施

（出所：各紙報道記事等を参考に榊ちばぎん総合研究所が取りまとめ）

こうした中で、競技への理解と開催機運の醸成が課題となっている「パラ競技」の理解と機運醸成に向けた県内の動きについてみると、県・千葉市（オリ・パラ7競技開催地）が中心となって行事・イベントを積極的に開催し、企業・経済団体・学校等の協力も得ながら、開催機運が徐々に盛り上がりを見せつつある。

（参考）

◆千葉県内で開催された主なオリンピック・パラリンピック関係行事・イベント（2016・2017・2018年度）

開催年月	主な行事・イベント名	開催場所	所在地
2016年度	9月 パラスポーツフェスタちば	千葉ポートアリーナ	千葉市
	9月 パラスポーツフォーラム in Chiba	キッコーマンアリーナ	流山市
	11月 千葉にオリンピック・パラリンピックがやってくる！	ららぽーと柏の葉	柏市
	12月 千葉にオリンピック・パラリンピックがやってくる！	イオンモール幕張新都心	千葉市
2017年度	6月 県民の日中央行事（競技紹介・体験等）	幕張メッセ	千葉市
	7月 ALL CHIBAで盛り上がりよう！～みんなのTokyo 2020 3 Years Go！（オリンピック3年前）	ワールドビジネスガーデン	千葉市
	7月 一宮町 サーフイン会場で盛り上がりよう！（オリンピック3年前）	一宮町 釣ヶ崎海岸	一宮町
	8月 千葉にオリンピック・パラリンピックがやってくる！	イオンモール幕張新都心	千葉市
	8月 ALL CHIBAで盛り上がりよう！～みんなのTokyo 2020 3 Years Go！（パラリンピック3年前）	海浜幕張駅南口駅前広場	千葉市
	9月 パラスポーツフェスタちば2017	千葉ポートアリーナ	千葉市
	10月 千葉にオリンピック・パラリンピックがやってくる！（オリンピック1000日前）	成田国際空港	成田市
	11月 千葉にオリンピック・パラリンピックがやってくる！（パラリンピック1000日前）	旭市総合体育館	旭市
3月 千葉にオリンピック・パラリンピックがやってくる！	ららぽーと船橋	船橋市	
2018年度	4月 NARITA・スポーツツーリズムフェス！	イオンモール成田	成田市
	5月 ジャパンパラウィルチア－ラグビー競技大会&パラスポーツ応援イベント Go!Together!	千葉ポートアリーナ	千葉市
	5月 QS6000 ICHINOMIYA CHIBA OPENと関連イベント	一宮町 釣ヶ崎海岸	一宮町

（出所：榊ちばぎん総合研究所作成）

(参考)

●千葉県・千葉市主催(含:共催・連携・協力)のオリ・パラ関係行事・イベント(2016・2017年度/含:上記)

千葉県	一般向け競技紹介・体験会等のイベント	2016年度:10回、2017年度:20回
	パラリンピック競技普及の担い手育成研修・体験会	2016年度:5回、2017年度:7回
	オリンピック・パラリンピックフラッグツア―	2017年度:20会場
	県内開催競技紹介パネル展示	2017年度:45会場
千葉市	小中学校の体育の授業でバラスポーツを実施	2017年度:市内の小中学校14校
	パラリンピアン等による学校訪問	2016年度:20校、2017年度51校
	大学との連携による講座開催	2017年度:市内全9大学中6大学で実施
	障がい者とその家族を対象としたスポーツ体験会	2017年度:ボッチャ体験会を8回開催

(注)小中学校や大学、経済界等との共催・連携・協力なども含む。

(出所:株式会社ばぎん総合研究所作成)

(2) 東京圏の文化プログラムの実施の現状と課題

文化プログラムは、規模や性格などによって、①公認文化オリンピアド、②応援文化オリンピアド、③beyond2020の3タイプに分かれる。2016年秋以降の約2年間に全国で3,321件の文化プログラム(単純平均で1都道府県当たり約70件)が活発に実施された(図表19)。これを地域別にみると、東京圏が全国の約4割を占めており、なかでも都(887件、シェア3割弱)が圧倒的に多い。

千葉県でも東京、神奈川に次ぐ157件が実施されたが、その中身をみると、オリ・パラ向けに新たに企画したプログラムもあるが、「第〇回大会」といった、従来から行われていたのと同じ内容で参加者も従来と変わらない公認・応援プログラムも少なくないなど、前述(1)に記載された「定義」に照らすと、位置づけが明確でないものがあるため、はっきりさせることが望まれる(図表20)。

図表 19 東京圏の文化プログラムの実施状況

(単位:件)

	東京圏計 (構成比)	東京圏				全国
		千葉県	東京都	埼玉県	神奈川県	
公認文化オリンピアド	255(76.8%)	29	184	13	29	332
応援文化オリンピアド	88(23.9%)	37	42	1	8	368
beyond2020	982(37.5%)	91	661	70	160	2,621
合計	1,325(39.9%)	157	887	84	197	3,321

(出所:Culture NIPPON、2016年10月～2018年6月5日現在)

※重複有

図表 20 千葉県の文化プログラム

	文化プログラム
公認文化オリンピアド	・「次世代に残したいと思う『ちば文化資産』選定事業
	・NHKハートフォーラム「東京2020を盛り上げよう～千葉からのメッセージ～」
	・日本遺産「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み」シンポジウム
	・千葉県少年少女オーケストラ 第21回定期演奏会
応援文化オリンピアド	・見る、知る、伝える千葉～創作狂言 里見八犬伝 其ノ巻～
	・ぼくの絵わたしの絵～第76回全国教育美術展～
	・千葉県文化会館開館50周年賛同事業「東総の第九2017」演奏会
	・古典の日記念 アマチュア落語コンテスト 第7回落語国際大会IN千葉
beyond2020	・國酒PR推進事業(国際空港キャンペーン)
	・NARITA・スポーツツーリズムフェス!
	・第8回流山ジャズフェスティバル
	・開館25周年記念 第7回ちば伝統文化の森まつり

(出所:Culture NIPPON)

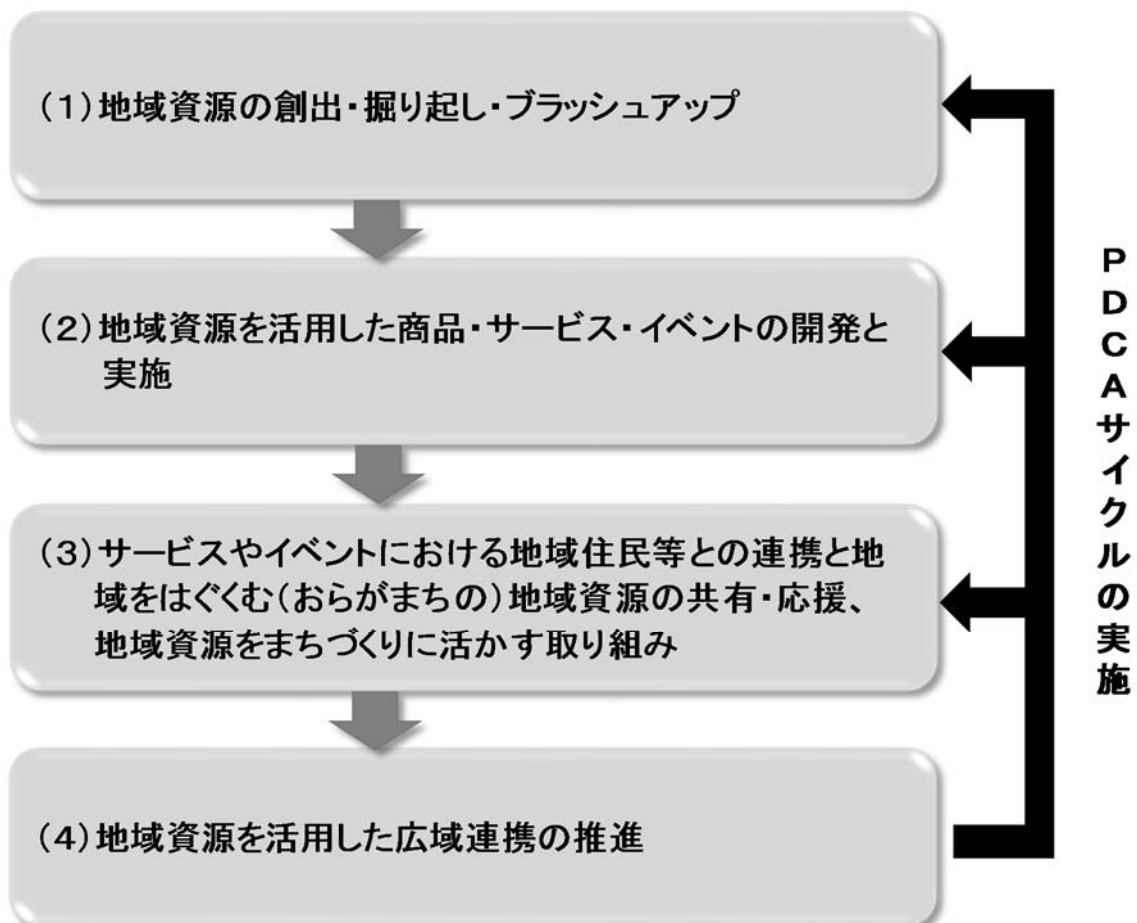
3. 提言

2020年オリ・パラ開催を2年後に控え、5月には千葉市で「2018 ジャパンパラウィルチェアーラグビー競技大会」が開催されるなど、オリ・パラ機運醸成に向けた活動が本格化している。一方、本調査における県内市町村へのアンケート結果によると、約7割の自治体が「オリ・パラに向けた文化イベントを行う予定がない」と回答するなど、県・千葉市とそれ以外の市町村との温度差が目立った。オリ・パラの開催成功を見据えた歴史・文化・芸術振興のレガシー創出に向けて、県内では一段の意識と機運の底上げが必要である。

地域資源を地元経済の振興に繋げると同時に、住民を巻き込みつつ「歴史・文化・芸術を活かしたまちづくり」を進めるためには、まず「(1) 地域資源の創出・掘り起し・ブラッシュアップ」を起点とした「(2) 地域資源を活用した商品やサービス、イベントの開発と実施」が不可欠といえる。その成功のためには、SNS等を活用した効果的な情報発信もキーワードの一つとなる。地域住民や地域の経済界、行政等が力を合わせたイベント等の成功体験イコール「(3) サービスやイベントにおける地域住民等との連携と地域をはぐくむ(おらがまちの) 地域資源の共有・応援、地域資源をまちづくりに活かす取り組み」が、「(4) 地域資源を活用した広域連携の推進」効果とも相まって、やがて観光客や訪問者の定住化を含めた、歴史・文化・芸術を活かしたまちづくりに繋がっていく。

これらの4つの視点を取り組みのベースとして、必要に応じてPDCAサイクルを回すことが求められている。そこで、本稿ではこの4つの視点ごとに、自治体や事業者、地域住民などが取り組むべきことを提言したい。

図表 21 歴史・文化・芸術を活用した地域活性化スキーム



(1) 地域資源の創出・掘り起し・ブラッシュアップ

歴史・文化・芸術資源の活用状況を今回のアンケート結果でみると、「活用している」と回答した自治体は6割弱となっている。地域別にみると、「東京湾岸地域」や「常磐・つくばエクスプレス沿線地域」などの都市部では8割以上が「活用している」と回答したのに対し、その他の地域では「成田空港周辺・印旛地域」が4割に留まるなど活用状況に格差がみられる。こうした取り組みや意識の遅れも相まって、県内観光客に占める「歴史・文化」関連の観光入込客数の構成比は2010年の17.5%から16年には14.9%に落ち込んでいる。観光振興のうえでも、まちづくりのためにも、既存の観光拠点のブラッシュアップとあわせて、新たな地域資源の創出や掘り起しが欠かせない。

地域資源の創出については、つくばエクスプレス沿線の柏の葉地域において、T-SITE(商業施設)を運営するカルチュア・コンビニエンス・クラブ(株)が、ジャズLIVEや子供たちのふれあいイベントを開催したり、中核事業者の三井不動産(株)が家具のペインティングイベントを催すことで、子育て世代の呼び込みに成功した例がみられる。また、千葉市が今後「パラスポーツの聖地」として世界的な評価を高めることで、障がい者や高齢者に優しい共生社会の先進都市として移住先としての人気が上がったり、美術館スペースの拡張と市民への開放・協業などを通じて、まちに「ノイズ⁸」が生まれ、進取創造の機運の浸透を通じて、若者に人気のまちに進化することが考えられる。

掘り起しに関しては、例えば、(株)千葉銀行では、古民家のもつ歴史的・文化的価値に着目し、古民家の次世代への継承と地域活性化を両立させるために「古民家活用チーム」を2017年に立ち上げ、後述(先進事例)の大多喜町の「まるがやつ」などを支援している。このように地域資源を掘り起こす過程では、名もない古民家も資源になりうるなど有名・無名を問わない。史跡・歴史的文化財のみならず、民話・伝説や郷土料理、民謡などあらゆる資源が対象となる⁹。千葉県が地域産業資源に指定した対象(2017年8月)は、農林水産物や生産技術、自然資源などが圧倒的に多く、歴史・文化・芸術分野は比較的少ないだけに隠れた地域資源は多いものとみられる。地元では当たり前の風景や風習などに触れることが、旅行者には非日常であるとともに、新たな発見や感動につながるものである。

図表 22 柏の葉地域での取り組み

	取組内容
柏の葉T-SITE	・ジャズLIVE ミュージックスクールの講師と生徒が行うジャズライブ。
	・手作り楽器でジャズセッション！ 家から持ってきた廃材でオリジナル楽器を作り、プロのミュージシャンとセッションをする子供向けイベント。
	・体感！ジャズアート～森のおんがくかい～ ジャズの演奏のリズムに合わせてお絵かきをする子供向けイベント。
三井不動産等	・マルシェコロール 住民参加型の市場。店舗で使用する椅子を地元の小学校やマンション居住者から提供を受けたものをペインティングするワークショップが実施されたり、国内外のアーティストがパフォーマンスを行うイベントも開催。

(出所:各ホームページ)

⁸ 千葉大学神野准教授によると、ノイズは「感性的な刺激」であり、ノイズが生まれてそれを許容する環境が整うことで、そこで行われるイベントやお店を訪れる人が増えるとの由。

⁹ 訪日客を積極的に受け入れている観光事業者によると、外国人は、周辺の道の駅、田園風景、とろろ芋を使った食事など、想像もしなかったものに興味を示していたとの声が聞かれている。野田市には多くの外国人が訪れる古武道道場があるほか、タイのテレビドラマ・映画のロケ地となった佐原地区では一時訪日客で賑わった。

(2) 地域資源を活用した商品・サービス・イベントの開発と実施

掘り起こした地域資源を地域活性化につなげるためには、地域資源を活用した商品・サービス・イベントに育て上げる取り組みが不可欠である。オリ・パラに向けた文化プログラムは必ずしも無料ではないため、事業として成立する可能性がある。

千葉県内の文化プログラム実施状況をみると、現時点で157件と東京都(887件)と比べるとかなり見劣りがしているが、これは伸び代があると捉えることもできる。

成田空港活用協議会が2017年度に行ったインバウンド向けアンケートで調査によると、千葉県に再訪意向のある回答者が次回の来日時にしてみたいこととして、「歴史・文化体験」が第3位であった¹⁰。このように歴史・文化・芸術分野の観光はインバウンド客にも訴求力が強い。

具体的な商品・サービス・イベントの開発では、県内に数多い「歴史資源」の「文化」「芸術」サービスやイベントなどへのさらなる活用が望まれる。例えば、千葉公園(千葉市)では6月に夜の大賀ハス祭り(YohaS)が初めて開催され、1日で21千人の来場者(前夜祭ウィークを含めると28.6千人)を集めた。「大賀ハス祭り(従来地域資源)」に夜間水上ステージや池面プロジェクションマッピングなど「大人のためのナイトタイム・エンターテインメント(プラスアルファの文化・芸術価値)」を加えることで、SNS等を活用した効果的な情報発信¹¹も行いつつ、大きな成功に繋がった。また、栄町では、2015年に江戸の街並みを再生した房総のむらに隣接する観光拠点のなかに「コスプレの館」をオープンし、忍者や町娘などのコスプレ体験を強化したことで観光客に人気となっている。観光客がまちに好感を持てば、SNS等を通じて更に交流人口が増え、その一部が定住人口に繋がる可能性もある。県内では一宮町(サーフィン)、県外では鎌倉や沖縄、北海道ニセコ町などでそうした事例がみられており、今後千葉市(市美術館拡張、千葉交響楽団)、柏市(吹奏楽)、船橋市(音楽フェスティバル)、市原市(アート×ミックス)などでも、同様の動きが生まれることを期待したい。

なお、既存の地域資源を活用して日本の伝統・文化・芸術を体験できるツアーを開発するのも一考である。地元で脈々と受け継がれてきたストーリーも大切にしたい。例えば、滝沢馬琴の『南総里見八犬伝』の里見氏は実在するが物語はフィクションである。館山市では、この地域資源を活用して毎年「南総里見まつり」を開催し、武者行列や戦国合戦絵巻などのイベントが人気を博している。各地域で地域資源にレベル感の違いはあるものの、地域の民話・民謡も工夫によっては観光客に訴求する商材になりうる。

開発した商品・サービス・イベントを販売ルートに乗せるためには、産官学金の連携も欠かせない。銚子市は、醤油の生産地として長い歴史を有しており、「ぬれせん」に続き「醤油入りゼリー」を官民連携で開発し、今後、観光協会が主体的に販売していくという。こうした商品開発に係る自治体の支援については、6次産業化に対する補助金などを更に推進していく必要がある。

¹⁰ 他の順位は、1位:東京ディズニーランド、2位:観光地訪問、4位:自然・景勝地観光、5位:グルメ、6位:温泉、7位:ショッピングなどである。

¹¹ 前夜祭で毎夜異なるパフォーマーが登場したため、観客および出演者によるSNS発信が増えたことが本祭の集客に繋がった由。また、館山市では、官民一体となったインバウンド誘致推進組織「外国人観光客を安房に呼び込み隊」の活動に伴い、在日台湾人を外国人旅行者誘致推進員として雇用し、SNSを活用して館山市の魅力を台湾に直接情報発信することで、台湾人の来訪につなげている。

(3) サービスやイベントの地域住民等との連携と地域をはぐくむ（おらがまちの）地域資源の共有・応援、地域資源をまちづくりに活かす取り組み

(3) -1 地域住民との連携

文化や芸術（音楽、美術）には、「みる」「ささえる」「する」の3要素があるが、地域住民の関与は、通常は「みる」ことに終始することが多い。今回実施したアンケート調査で歴史・文化・芸術資源を活用していない理由において、「人材が不足している」が約8割で最も多かったが、これは、活用を検討する際に地域住民との連携を強化することで克服が可能である。

連携強化に向けて、本年2月に千葉市商工会議所が主催した文化を核とするまちづくりセミナーが行われ、「美術館や文化施設以外にも、まちの中にはお店や看板、壁の落書きなど、感性を刺激する様々なものがあり、そうした刺激が増えることで人々の生活のありようが変わって新たな文化が生まれ、まちが活性化していく」（神野・千葉大准教授）とする講演が行われるなど、文化・芸術と地域住民との連携が強調された。

また、地域資源を活用した商品やサービス、イベントを企画して文化や芸術に高めようとする事業者サイドからすると、事業を継続するうえで、まず第一に事業性の評価が問題となる。事業者としては不採算の事業を継続することができないからだ。事業性を確保するうえでは、行政からの補助金や企業等からの協賛金もあるが、NPO法人やボランティア団体、地域住民などとの連携が極めて重要である。地域住民を「ささえる」「する」立場で企画する事業に参加してもらうことで、事業の担い手確保や採算性の向上のほか、地域住民の意識の変化や地域との一体感の醸成、イベントの盛り上がりや集客が期待できるようになる。行政主催の例にはなるが、市原市の「いちほらアート×ミックス」では、地域住民のボランティアが数多く参加して会場の運営などを行っているが、市民が地域資源やイベントに積極的に関与することによって、地元の歴史・文化・芸術資源に触れる機会が増え、地域への愛着を更に深める効果が生まれており、市民力の活用は有効と言える。

(3) -2 地元企業との連携

民間企業が文化や芸術事業に持続的に参画する狙いは、①直接的な収益確保、②賑わいの増加（イベント後を含む）などに伴う間接的な収益確保、③メセナ活動の3つに大別される。伊勢のおほらい町・おかげ横丁では、地元の老舗企業が主導して整備を行うことで①、②の経済効果が生まれており、地域の企業資本との連携も有効である。

③については、近年は企業の社会貢献意識の高まりなどを背景として、オリ・パラ関連イベントへの連携・協力姿勢からもうかがえるように、企業が芸術文化事業の実施や芸術文化活動の支援などメセナ活動を行う動きが増えている。メセナといっても、コンサートの主催や美術館の運営、イベントへの協賛などの資金援助、イベントへの人員や会場の提供など、企業によって活動の仕方は千差万別であり、地域との関係づくりの中で、できる範囲の取り組みを行って地域活性化の一役を担っていくことが重要である。

因みに、千葉県内で過去に開催されたイベントやスポーツ活動等によって県内にもたらされた経済効果は、図表23の通りとなる。幕張メッセで開催されるイベント等による需要創出額は約1,000億円規模と試算されている。

図表 23 県内でのスポーツ活動・イベント等開催の県内経済への波及効果

	時期	経済効果 (県内)	効果の源泉等
千葉ジェッツふなばし	2017-18シーズン (2017/7/1~2018/6/30)	18.1億円	チケット収入、スポンサー料、来場者交通費・飲食費等
幕張メッセ	2014年度	981億円	主催者:156億円、出展者:322億円、 来場者:479億円
音楽イベントの経済効果:千葉市によると、幕張メッセで開催される音楽イベントの経済効果は1日当たり19~42百万円。			

(出所:各紙報道記事等を参考に株式会社ちばぎん総合研究所が取りまとめ)

(3) -3 自治体の役割

自治体は、商品開発やイベント開催を検討している民間事業者や団体等への支援を強化したい。千葉県では、地域資源を活用した新商品の事業化等に取り組む中小企業・地域グループを対象に伴走型支援や専門家派遣等の支援を行っており、財政面に不安を抱える事業体は活用を検討してはどうか。

また、地域住民が地域の歴史・文化・芸術資源に積極的に触れるようになるためには、若い頃から触れることを習慣とすることが重要である。金沢 21 世紀美術館では、教育普及プログラムとして小学生向けの鑑賞授業を行ったり、気軽に入れる無料ゾーンを設けたり、敷居を低くし誰でも気軽に美術を楽しめる場所を提供している。千葉交響楽団でも、小中高等学校向けの音楽鑑賞教室を実施したり、複数の高校の合唱団や吹奏楽団と競演する演奏会などを行っている。¹²

千葉市では、中心市街地に立地していたパルコ・三越撤退(2016年11月、17年3月)・JR 駅ビル全面開業(18年6月)によって、賑わいの千葉駅周辺一極集中、中心市街地離れが強まっているが、中心市街地の賑わいを取り戻すため、市では19年度中の完了を目途に、市美術館と同居する中央区役所の機能を旧パルコ近くに移転し、美術館を拡張する。拡張スペースには、自慢の浮世絵コレクションの常設展示室を開設するほか、ワークショップルームやアトリエを設けて、美術を身近に感じられる体験・交流を促進し、文化を中核とするまちづくりに活かす方針である。また、パラスポーツの国際大会を積極的に誘致し、児童・生徒へ観戦を働きかけることで、オリ・パラ後を見据えた共生社会を学ぶ場としても活用している。

教育現場ではこういった活動を積極的に取り入れてもらいたい。子どもの頃から日常の中に歴史・文化・芸術資源があることが当たり前となることによって、地域住民の意識も高まり、地域への愛着につながるだろう。

(4) 地域資源を活用した広域連携の推進

千葉県の歴史・文化・芸術資源は、京都・奈良などと比べると、やや小ぶりであるだけに、各自自治体や事業者などが広域的な視点で連携し、点から面となるよう相乗効果を高めることも重要である。

県内の連携事業をみると、北総四都市江戸紀行¹³が日本遺産に認定されたことを受けて、2016年

¹² (株)ちばぎん総合研究所が5月に主催した「音楽とまちづくり」シンポジウムでは、「音楽家が高い技術、高い芸術性を一方的に提示するのではなく、気軽に行けるような身近な存在として感じてもらえるようになって初めて、おらがまちのオーケストラになれる」(山下・千葉交響楽団音楽監督)との意見も出された。

¹³ 佐倉・成田・佐原・銚子:百万都市江戸を支えた江戸近郊の四つの代表的な町並み群。

5月には、日本遺産北総四都市江戸紀行活用協議会が設立され、インバウンド向けのPRや各種体験事業が実施されている。また、千葉市では、2018年5月に、千葉常胤生誕九百年記念として、千葉氏と関連のある岩手県一関市や岐阜県郡上市など10市町とともに第2回千葉氏サミットを開催し、騎馬武者行列のほか、歴史衣装試着体験や子ども流鏝馬など楽しいイベントが好評を博した。こうした地域の歴史を活用した県域を超えた広域的な連携体制の構築は、地域観光の持続可能性が高まるとともに、相互交流の活発化も期待できる。このようにみると、広域連携の動きも一部ではみられるものの、全体としてはまだ少数派といえる。

もともと、今回のアンケート調査で歴史・文化・芸術資源の活用に向けて、今後行いたい取り組みをみると、「近隣自治体との連携」と「民間企業やNPO団体との連携」がそれぞれ約4割となっており、連携による相乗効果を志向している自治体が少なくないことが分かった。千葉県では、地域DMO¹⁴として鴨川観光プラットフォーム(株)と(一社)木更津市観光協会が国に登録されているが、芝山町で観光DMO「みどりと空のプロジェクト」が立ち上がったほか、銚子市がDMOの設立を検討するなど、地域の連携機運が次第に盛り上がってきている。こうした動きを追い風ととらえ、一段の広域連携が進むとともに、歴史・文化・芸術資源を活用した地域活性化に弾みがつくことを期待したい。

おわりに

今回の県内市町村向けアンケート結果をみると、「歴史」資源を中心に県内には多くの資源が眠っているにもかかわらず、人材やノウハウなどの不足もあって、十分に活用できていない実態が明らかになった。また先行きをみても、県内市町村の約7割が「オリ・パラに向けた文化イベントを行う予定がない」と回答するなど、活用意向において県・千葉市とそれ以外の市町村との間に大きな温度差があることも分かった。

もとより、新たな資源の創造や歴史・文化・芸術資源を活用した地域活性化・まちづくりは本来、一気呵成に進むものではなく、地域の合意を得つつ地元の意識の変化を伴いながら、時間をかけて進むべきものである。

そうした中であっても、2年後に迫る東京オリ・パラは、地域資源の活用に向けた新たな検討を始めるうえで良い機会となるはずだ。この千歳一遇のチャンスを捉えて、自治体・事業者・住民など関係者が意識を高く持ち、地域資源を活用した地域活性化やまちづくりに向けて、粘り強い努力を続けることを期待したい。

以上

¹⁴ Destination Management Organization の略。観光庁が規定する日本版DMOは、地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協同しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人のこと。

4. 美術・音楽・歴史をまちづくりや地域活性化に活かした県内の先進事例

(1) いちはらアート×ミックス（市原市）

概要	市原市の里山を舞台に開催する芸術祭。アートと地元の人々や産業を結びつけ、地域の活力を維持・発展させることで、地域振興・産業振興に繋げることを目指している。
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ○前は作家がメインとなって地元の方が参加する機会が少なかったため、2017年は地域で活躍する個人や団体の魅力を発信する「地域プロジェクト」を実施した。また市内の小学生の絵画を展示したり、小中学生にウェルカムボードを作成してもらった。 ○地域で作家を育て、地域に根付いてもらうために若手の作家を中心に選んでいる。 ○おにぎりのための運動会など、参加型のイベントやワークショップを多く実施した。 ○小湊鐵道各駅及び各協力店舗にのぼり旗とスタンプを配置し、スタンプラリー（集めたスタンプ数に応じて景品と交換）を実施した。 ○運営は、ボランティアや会場周辺の町会、里山団体等に全面的な支援を受けたほか、市内特別支援学校の生徒に、上総大久保駅などのトイレ清掃へ協力してもらうなど、多くの地域住民に協力してもらった。
成果及び今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> ○来場者数：100,066人（前回来場者数87,025人） ○経済波及効果は、約5億9,417万円。 ○スタンプラリーを実施したことによって、前回開催時は来客が少なかった近隣店舗にも通常の2～3割増しの来客があった。 ○前は否定的な声もあったが、地域の方に受付など実際に協力してもらうことによってアートミックスへの認識が変わり、理解を得ることができた。 ○今後は地元企業との関わりを深めたい。作家と企業をマッチングさせて企業の扱う素材を使用したアートを制作したり、寄付の代わりに企業の持つ技術やサービスを提供していただくことなどを検討している。
取組主体	いちはらアート×ミックス実行委員会
データ出所	市原市、市原商工会議所へのヒアリング



(2) 千葉交響楽団の音楽活動

概要	千葉県唯一のプロオーケストラ。「おらがまちのオーケストラ」をスローガンに、地域に根ざした音楽活動を行っている。
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ○自主公演の他に、依頼演奏会や音楽鑑賞教室、県民芸術劇場公演、特別支援学校への巡回コンサート、アウトリーチ活動など地域に根ざした活動を数多く実施しており、小中高校生等を対象とした演奏会が約半分を占めている。 ○アウトリーチ活動の1つとして、オリ・パラ関連イベントに参加して演奏を披露している。 ○県の音楽祭などの中で、地元の高中生やアマチュアの方とコラボ演奏を行っている。 ○ファンサービスの試みとして、演奏会前のプレコンサートや来場者を対象とした交流会を実施し、県民とのふれあいと浸透を図っている。
成果及び今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> ○近年、楽器を演奏できる人が増え、オーケストラへの入団希望者も多い。30年以上前から行ってきた音楽鑑賞教室などの活動が、演者の増加という形で地域の文化振興につながっている。 ○2017年度は主催3公演（定期演奏会2公演、ニューイヤーコンサート1公演）の入場者数合計が4,726名となり、前年度（4,247名）を上回る盛況であった。 ○今後は県内の企業や団体へのPRにも力を入れていく。経済団体に所属してから会員からの収入が微増している。 ○いかに若者を呼び込むかが喫緊の課題となっている。新しいマーケットを開拓していくためにマーケット調査をしていきたい。
取組主体	(公財) 千葉交響楽団
データ出所	(公財) 千葉交響楽団へのヒアリング



(3) 大多喜の古民家活用（まるがやつ）

概要	大多喜町の築 200 年の古民家を宿泊・研修施設としてリノベーションし、都市部から宿泊客を呼び込むことで、過疎化の進む農村地域の賑わい創出や地域経済の活性化を目指している。
施設概要	[所在地] 夷隅郡大多喜町下大多喜 1530 [アクセス] 圏央道「市原鶴舞 I C」より 16 km [敷地] 宅地 1,372.26 m ² ほか [宿泊施設] 萱：定員 6～15 名（基本料金 7 万円）、蔵：同 2～4 名（2 万 9 千円） ※千葉県建築文化賞（平成 29 年度）優秀賞受賞
取組内容	○利用者は、友達同士のファミリー世帯が多いが、企業研修のほか、少数ながら台湾など海外からの団体客もみられる。囲炉裏や薪風呂、竈を使った昔の生活様式を体験しながら、座禅・写経、農業実習などの様々な体験プログラムも提供。キャンプやバーベキュー、天体観測施設も併設している。 ○一棟貸しのスタイルながら、2018 年 8 月の稼働率は約 8 割となっており、土曜日に関しては同 8～12 月まで予約で埋まっている。 ○利用者からは、「古民家の割にきれいだった」、「田舎の雰囲気を楽しめた」、「スタッフのおばあちゃんが元気だった」など満足の声が届いている。
成果及び今後の展望	○地元から 60～70 歳代の女性 3～4 名、地元大学の学生 2 名を雇用している。また、体験プログラムの講師として地元事業者にも協力してもらい、地域の賑わい創出に寄与している。 ○2019 年 3 月には、1 日 1 組限定のキャンプ場をオープンさせるなど施設の充実を図る予定。 ○将来的には、古民家活用のビジネスモデルを、コンサルティング活動（リノベーションの設計・施工を含む）を通して県内に水平展開していく方針。
取組主体	(株) 人と古民家
データ出所	(株) 人と古民家の牧野嶋社長へのヒアリング



5. 参考資料（県外の先進事例）

（1）金沢 21 世紀美術館

概要	金沢大学附属中学校・小学校・幼稚園があった場所に、2004 年 10 月 9 日に開館した。「新しい文化の創造」と「新たなまちの賑わいの創出」を目的に人々の交流を促す活動を積極的に行っている。
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ○教育普及プログラムがあり、子供向けの教育プログラムや 20 代までの若者によるプロの作家とつくる現代アートのプログラムなどを行っている。 ○「ミュージアム・クルーズ」という小学生向けの鑑賞授業では、教師・市民ボランティア・教育普及のスタッフが合同でプログラムをつくる。 ○市民が気軽に集い、憩い・遊び・交流できる無料ゾーンを設けており、かつ、夜の 10 時までライトアップをしていることから、日中から夜まで人の賑わいを創出できている。 ○美術館の外にある広場で、週末や連休中に「Weekend まるびい Art-Complex」や「ARTS PLANET」などのイベントを開催し、訪れる人と美術館の様々な出会いを創出している。 ○周辺商店・飲食店と連携し、当館展覧会のチケットの半券を持参するとお土産や飲食が割引になったり、商店や飲食店に設置してある専用のコースターを持参すると入館料を割り引く取り組みを行っている。これによって美術館だけでなく町にまで人の流れをつくることができている。 ○「ミュージアム・クルーズ」（前出）で来館した小学生に「もう 1 回券」と称して当館の入館券を添付している。そうすることで次回は親と一緒に来るなど、リピート効果を狙っている。 ○富山市ガラス美術館と連携をしており、お互いのチケットの半券を提示すると観覧料が割引となるサービスがある。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ○2017 年度の入館者数は、237 万人と 16 年度に次いで過去 2 番目の多さとなり、3 年連続で 200 万人を突破した。 ○開館 1 年目の金沢市への経済波及効果は、約 328 億円と算出されている。 ○2013 年に行ったアンケートでは、利用回数が 3 回以上と答えた人が 27%おり、3 割近くがリピーターとなっている。
取組主体	公益財団法人 金沢芸術創造財団
データ出所	金沢 21 世紀美術館ホームページ、「美術館の文化プログラムによるまちづくりと文化観光」、ちばぎん総合研究所ヒアリング資料

(2) 仙台クラシックフェスティバル

概要	仙台市内の4施設 10 会場および地下鉄駅や街なかを会場に3日間、朝から晩までクラシックコンサートを開催。国内外で活躍する演奏家、仙台フィルハーモニー管弦楽団、仙台で活動する演奏家による演奏を1公演 1,000 円～2,000 円の料金で楽しめる。(beyond2020)
取組内容	○気軽に楽しんでもらうため1公演45～60分にしている。また、朝から晩まで実施しているためランチの前、用事の合間、お仕事帰りなど、都合に合わせて聞くことができる。 ○0歳児・3歳児から入場可能な公演や子供向けプログラムもあり、家族で楽しめるようにしている。 ○会場に事前申込制・有料の託児サービスを設けている。
成果	○2006年に行われた第1回の延べ入場者数が30,000人だったが、2017年の延べ入場者数は39,000人となっている。 ○仙台ではこの他にも様々な音楽イベントが行われており、2009年に仙台市は「文化庁長官表彰（文化芸術創造都市部門）」を受賞した。
取組主体	公益財団法人 仙台市市民文化事業団
データ出所	仙台クラシックフェスティバルホームページ

(3) 伊勢おはらい町のまちづくり

概要	おはらい町は伊勢神宮の門前町として栄えてきたが、参拝客は参拝後、別の観光地に移動することがほとんどでおはらい町に立ち寄る参拝客は年間20万人程度に落ち込んだ。そのことに危機感を感じて、地元の老舗企業「赤福」を中心に、地元住民がおはらい町の再開発に取り組んだ。また、おはらい町の中心部に赤福が単独で「おかげ横丁」を整備した。
取組内容	○伝統的な建築物の保全・再生のため、伊勢特有の建築様式に基づく整備基準を定め、当該基準に適合する建築物の修繕や建築に対し市が低金利で資金を貸付した。 ○第61回式年遷宮（1993年）に向け、おはらい町通りの空間を一体的に整備し、歴史的景観を創出するとともに、参拝客の観光利便性の向上を図った。 ○地元の老舗企業「赤福」によりお蔭参りで賑わった頃のまちなみをテーマとする施設を面的に整備した。
成果	○整備前は年間約35万人（1992年）の観光客数であったが、翌年の整備後は、オープン半年間で約64万人と大幅に増加した。2009年は412万人が「おかげ横丁」を訪れ、2017年には572万人もの人々が訪れている。
取組主体	株式会社 赤福
データ出所	国土交通省「世界に誇れる日本の美しい景観・まちづくり～全国47都道府県の景観を活かしたまちづくりと効果」

以上